

神田小の誇りは「明るい笑顔」：すべては神田の子の「希望をはぐくむために」



学校だより

No. 4 さいたま市立神田小学校

平成29年 6月30日発行 電話 (853) 4377
URL: <http://jinde-e.saitama-city.ed.jp/>

学校教育目標

○人間性豊かで 21世紀を
たくましく生きる神田の子
・かしこく・たくましく・あたたかく

神田小学校40周年開校記念の会、桜区バスケットボール大会Aブロック優勝、緑陰読書会、暗唱大会など、保護者、地域の皆様のお陰をもちまして、6月も、神田小学校の子どもたちの明るい笑顔、心温まる優しい笑顔を数多く見ることができました。心より感謝申し上げます。



<緑陰読書会>

「くふうしよう」

校長 内野 多美子

今年も、神田小学校では、6月16日から、水泳の授業が始まっています。子どもたちは、元気いっぱい、楽しそうに声を上げながら、水泳の授業に取り組んでいます。

水泳といえば、私が強く思い出すのは、小学校4年生の夏休みのことです。実は、私は小学校4年生まで泳ぐことができませんでした。いわゆるカナヅチです。毎年、毎年、学校の授業で、夏休みのプールで、家では地域のプールに通って練習しましたが、なかなか泳げるようになりませんでした。だから、水泳の授業は大嫌いでした。

そんな、4年生の夏休みのある日。私は、友達の家遊びに行きました。すると、5階にあった友達の家玄関から、学校のプールがよく見えたのです。そこでは、高学年の水泳教室が行われており、先生が「どうして、水の中で体が沈んでしまうのか。」を大きな声で話していました。先生は「水の中で沈んでしまうのは、水を怖がり体に力が入って、背中が反りお腹が出てしまうからだ。ほら、こんな風に。すると、お腹が重しとなって、沈んでしまうんだ。だから、力を抜いて、そっと背中もお腹も平らにしてごらん。」とプールサイドに児童用の机を2つ持ってきて、その上で腹ばいになり実演しながら説明していたのです。私は、「なるほど、そうか。」と思いました。それまで、一生懸命泳げるようにと練習していましたが、そんなことは考えてもみなかったのです。そして、次の水泳教室の日、私は、その先生の言っていたことを確かめてみることにしました。すると、どうでしょう。今までたくさん練習しても水に浮かなかった体が、すうっと浮くのです。試しにバタ足をしてみると少し進みました。あの時のうれしさ、驚きは今でも忘れません。

「とにかく考えてみることに、くふうしてみることに、そしてやってみることに。失敗すればやりなおせばいい。やりなおしてダメなら、もう一度くふうし、もう一度やりなおせばいい。」これは、パナソニックを一代で築き上げた松下幸之助さんの言葉です。

もうすぐ、夏休み。いつもとは違う時間の流れの中で、様々なくふうをしながら多くの体験をし、2学期の始業式で、真っ黒に日焼けした笑顔と、ひとまわり成長した神田の子に逢えるのを楽しみにしています。どうぞご家族でよい夏休みをお過ごしください。